

家計収支や生活程度に改善はみられず、 家庭生活や健康に影を落とす長時間労働

- 2007年度生活実態調査総括報告 -

労働調査協議会

はじめに

本稿では、労働調査協議会が協力して2007年に労働組合が実施した生活実態調査の中からいくつかを取り上げ、組織労働者の生活実態について概括的に紹介していく。本稿で取り上げた調査は、

下表に示す通りである。調査結果の詳細については各報告書を参照されたい。

なお、調査を実施した労働組合の担当者の方にも、生活実態調査の意義、特徴的な点、今後の課題などをまとめていただいた。

〔参考資料一覧〕

| 組合名 | 報告書名 | 発行年 | 調査の実施時期 | 調査対象数 | 有効回収数（有効回収率） |
|----------------|---------------------------------------|-------|----------|-----------------|----------------|
| 電機連合 | 『図表で見る電機労働者の生活白書 （調査時報第371号）』 | 2007年 | 2007年7月 | 男女既婚者 5,000人 | 4,246人(84.9%) |
| 自動車総連 | 『2007年組合員生活実態調査報告』 | 2007年 | 2007年7月 | 8,200人 | 7,597人(92.6%) |
| 公務員労働組合 連絡会 | 『2007年度公務・公共部門員労働者の 生活実態に関する調査報告書』 | 2008年 | 2007年10月 | 17,650人 | 16,952人(96.0%) |

次号の特集は

「職場の安全衛生問題（仮題）」です

1. 家計の状況

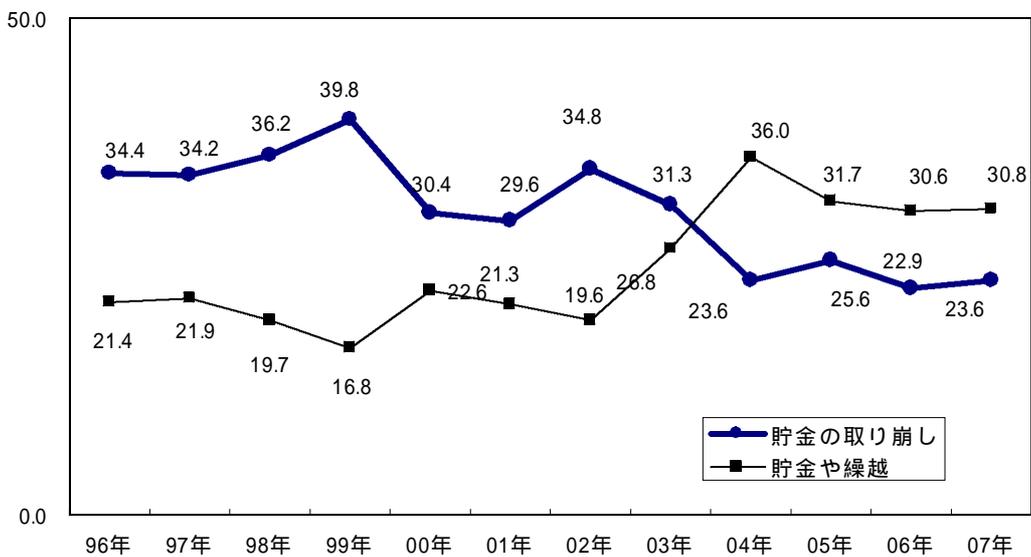
改善みられぬ家計収支、
増加した税・社会保険料への負担感

(1) 家計収支感

電機連合の場合、「貯金や繰越をすることがで

きた」(黒字世帯)は30.8%、「収支トントン」が42.6%、「貯金の取り崩しでやり繰りした」(赤字世帯)が23.6%である(第1図)。2006年調査と同様の傾向となっている。年齢別にみると、赤字世帯の比率は中高年層ほど多く、40代後半以降では3割を超えている(第1表)。

第1図 96年以降の家計収支感の推移【電機連合】(男性計)



第1表 最近の家計収支感【電機連合】

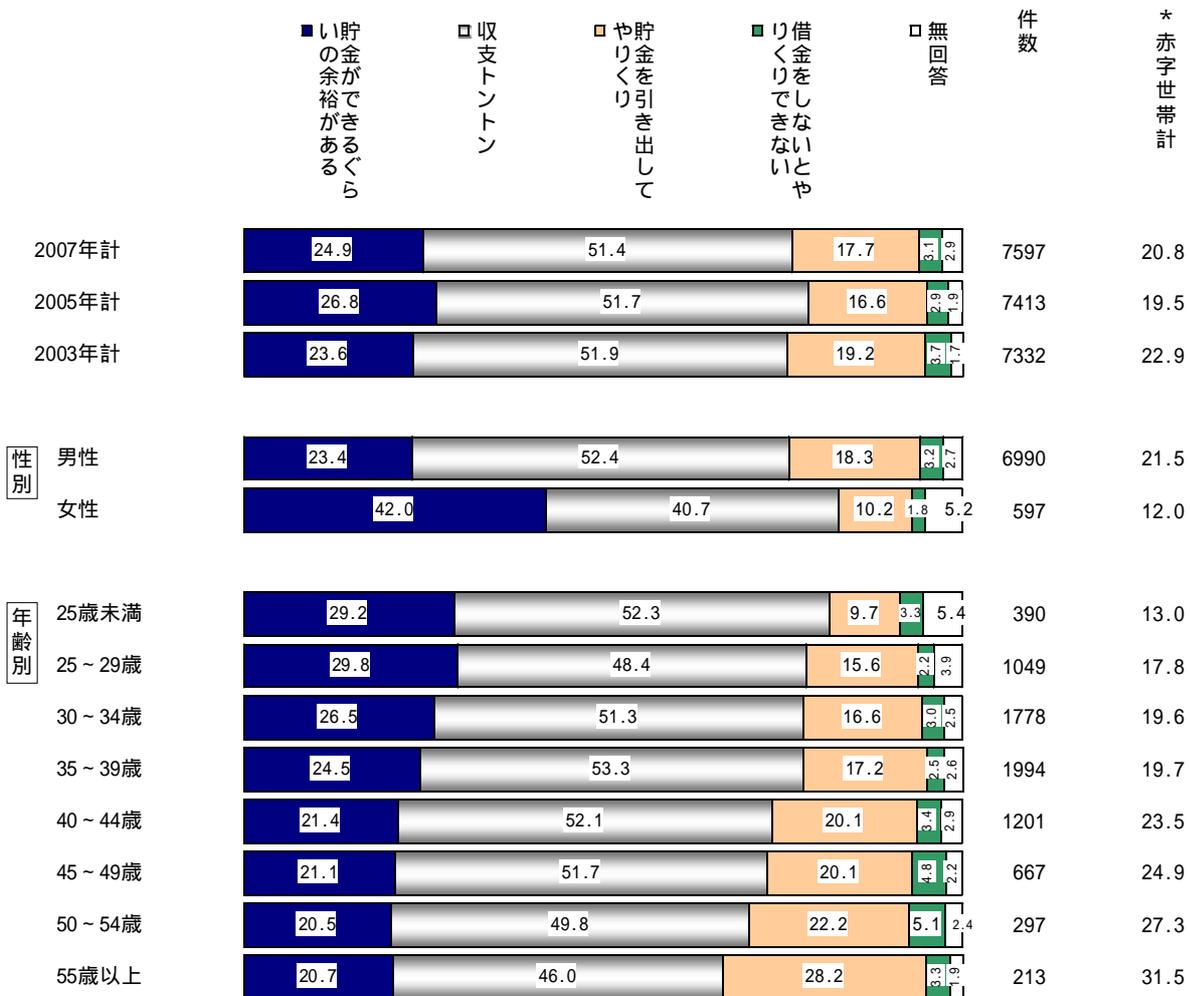
| | す貯 る金 こや と繰 がり で越 きし たを | つ収 た支 ト ン ト ン で あ | ど貯 で金 やの り取 くり り崩 しし したな | 無 回 答 | 件 数 |
|---------------|--|--|---|-------------|--------|
| 男性計 | 30.8 | 42.6 | 23.6 | 3.0 | 3432 |
| 男性 年齢 別 | | | | | |
| 29歳以下 | 35.2 | 43.2 | 17.7 | 3.9 | 310 |
| 30 - 34歳 | 40.3 | 42.7 | 13.9 | 3.0 | 761 |
| 35 - 39歳 | 34.6 | 41.1 | 21.7 | 2.6 | 874 |
| 40 - 44歳 | 26.3 | 42.5 | 27.8 | 3.5 | 753 |
| 45 - 49歳 | 19.0 | 44.2 | 33.7 | 3.1 | 520 |
| 50歳以上 | 19.7 | 42.8 | 35.6 | 1.9 | 208 |

自動車総連では、「収支トントン」が51.4%と過半数を占め、黒字世帯である「貯金ができるぐらいの余裕がある」が24.9%、<赤字世帯>（「貯金を引き出してやりくり」17.7%）+「借金をしないとやりくりできない」3.1%）は20.8%となっており、黒字世帯が<赤字世帯>を4ポイント上回っている（第2図）。時系列でみると、2005年調査では黒字世帯が2003年調査と比べやや増加する傾向にあったが、今回調査では黒字世帯が微減

に転じている。電機連合と同様、中高年層ほど厳しい家計となっており、<赤字世帯>比率は50歳以上では3割前後となっている。

いずれの組合も、収支均衡世帯が4割強～5割を占め、黒字世帯が赤字世帯を上回っており、この1～2年は大きな変化がみられない。また、住宅ローンや教育費の負担を抱える中高年層で厳しい家計収支となっている点も共通している。

第2図 世帯の家計状況【自動車総連】

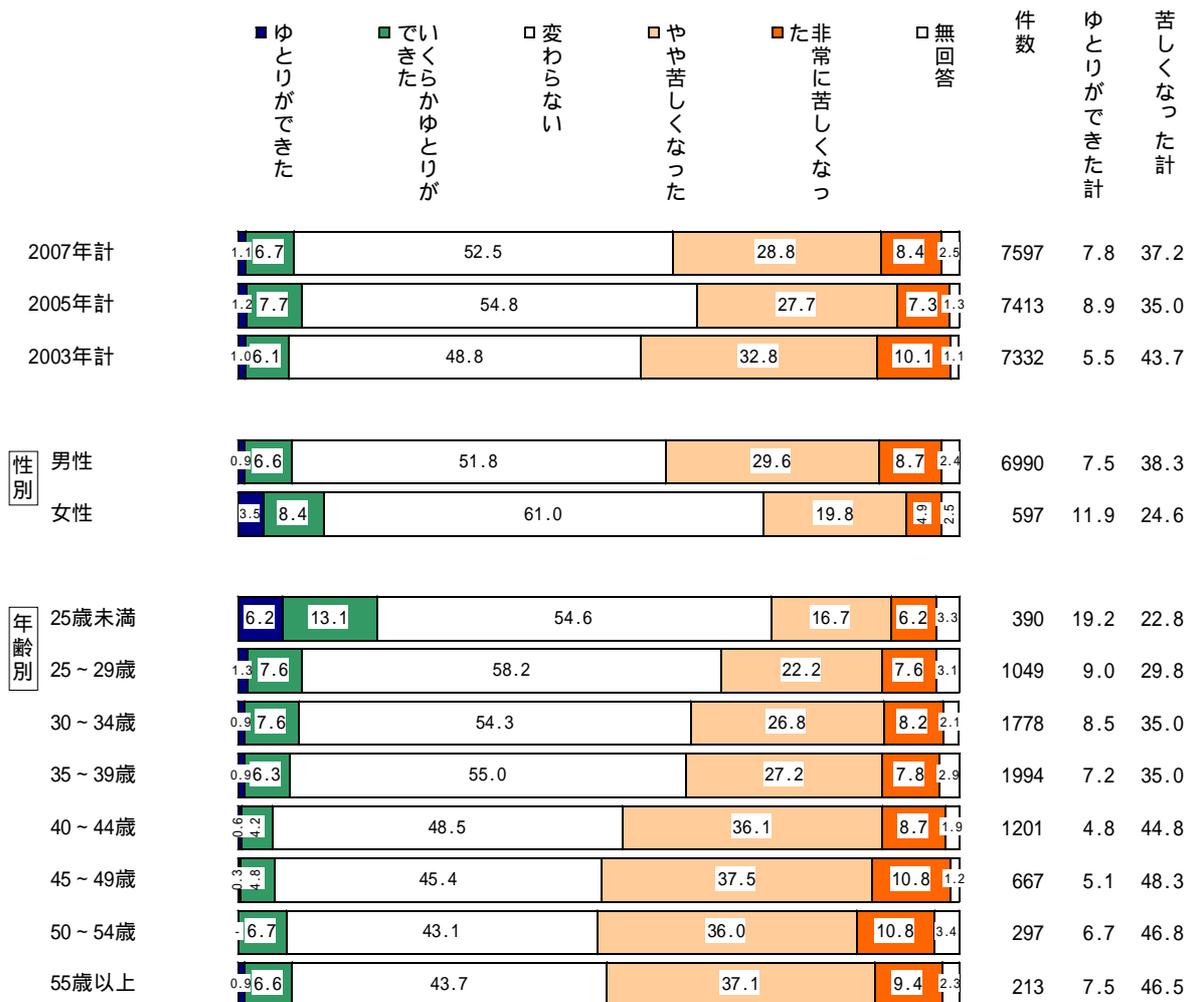


(2) 1年前と比べた生活程度

自動車総連では「変わらない」(52.5%)が半数を占めており最も多い(第3図)。ただ、<ゆとりができた>と<苦しくなった>との比較では、<苦しなくなった> (「やや苦しなくなった」28.8%、「非常に苦しなくなった」8.4%)が37.2%で、<ゆとりができた> (「ゆとりができた」1.1%、「いくらかゆとりができた」6.7%)の7.8%を大きく上回っている。生活程度への評価は、“改善”と“悪化”とに分かれるのではなく、“現状維持”

と“悪化”とに分かれている。2005年調査では<苦しなくなった>が2003年調査比9ポイント減だったのに対し、今回の調査では<苦しなくなった>がわずかに増加している。年齢別にみると、<苦しなくなった>は若年層に比べて中高年層に多くみられる。30代後半までの年齢層では、<苦しなくなった>という評価は3人に1人程度にとどまるのに対し、40代後半以上の年齢層では、5割弱が<苦しなくなった>としている。

第3図 1年前と比べた生活程度【自動車総連】



公務員連絡会の場合、＜楽になった＞：「かわらない」：＜苦しくなった＞の三つに括ると、3.4%：45.6%：47.0%で、昨年とほぼ同じである(第2表)。年齢別にみると、＜苦しくなった＞の回答は男性の30代後半で約半数となり、40代前半で56%、ピークは40代後半から50代前半の64%、50代後半になると56%へといくぶん下がる(第4

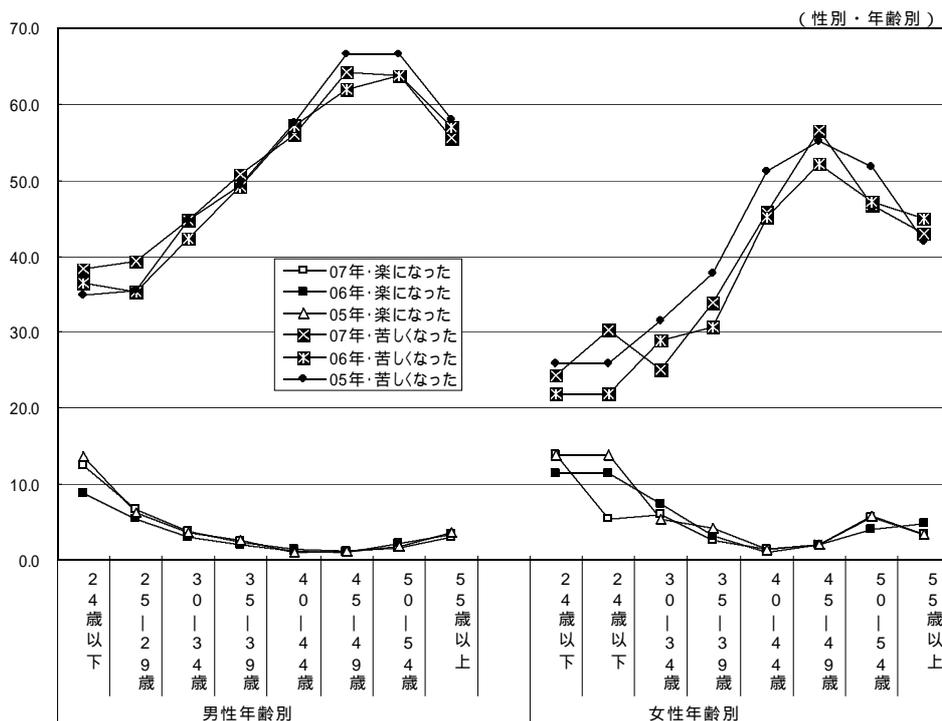
図)。女性では40代前半で＜苦しくなった＞が57%と半数を超えてピークとなっている。男性の50歳前後と女性の40代後半で昨年と比べて生活困窮感が高いのは例年同様である。

官民を問わずいずれの組合も、家計収支感と同様に、中高年層で生活が苦しくなったと感じている人が多いことがわかる。

第2表 昨年の今頃と比べた生活【公務員連絡会】

| | (総計、性別) | | | | | | | N | なつ楽 | なつ苦 |
|-----|----------|---------|-------|--------|--------|-------|-----|-----|------|-----|
| | にかななつりた楽 | 少なつした楽に | いかわらな | な苦つしたく | たしく常に苦 | いわからな | A | | | |
| 総計 | 0.7 | 2.7 | 45.6 | 37.6 | 9.4 | 2.6 | 1.4 | 3.4 | 47.0 | |
| 06年 | 0.5 | 2.6 | 45.9 | 38.1 | 9.8 | 2.3 | 0.8 | 3.1 | 47.9 | |
| 05年 | 0.5 | 3.0 | 43.3 | 39.3 | 10.2 | 2.5 | 1.3 | 3.5 | 49.5 | |
| 04年 | 0.7 | 2.9 | 43.8 | 39.3 | 10.0 | 2.3 | 1.0 | 3.6 | 49.3 | |
| 男性計 | 0.6 | 2.4 | 43.3 | 39.4 | 10.5 | 2.5 | 1.3 | 3.0 | 49.9 | |
| 06年 | 0.4 | 2.1 | 43.3 | 40.0 | 11.4 | 2.1 | 0.6 | 2.5 | 51.4 | |
| 05年 | 0.5 | 2.6 | 41.1 | 40.9 | 11.5 | 2.3 | 1.1 | 3.1 | 52.4 | |
| 04年 | 0.7 | 2.5 | 41.5 | 41.3 | 11.1 | 2.1 | 0.9 | 3.2 | 52.4 | |
| 女性計 | 0.8 | 3.5 | 51.9 | 32.6 | 6.4 | 2.9 | 1.8 | 4.3 | 39.0 | |
| 06年 | 0.8 | 3.9 | 53.1 | 32.7 | 5.7 | 2.8 | 1.1 | 4.7 | 38.4 | |
| 05年 | 0.3 | 4.1 | 49.0 | 35.2 | 6.6 | 3.0 | 1.6 | 4.4 | 41.8 | |
| 04年 | 0.8 | 3.9 | 49.4 | 34.6 | 7.3 | 2.7 | 1.3 | 4.7 | 41.9 | |

第4図 昨年の今ごろと比べた生活【公務員連絡会】



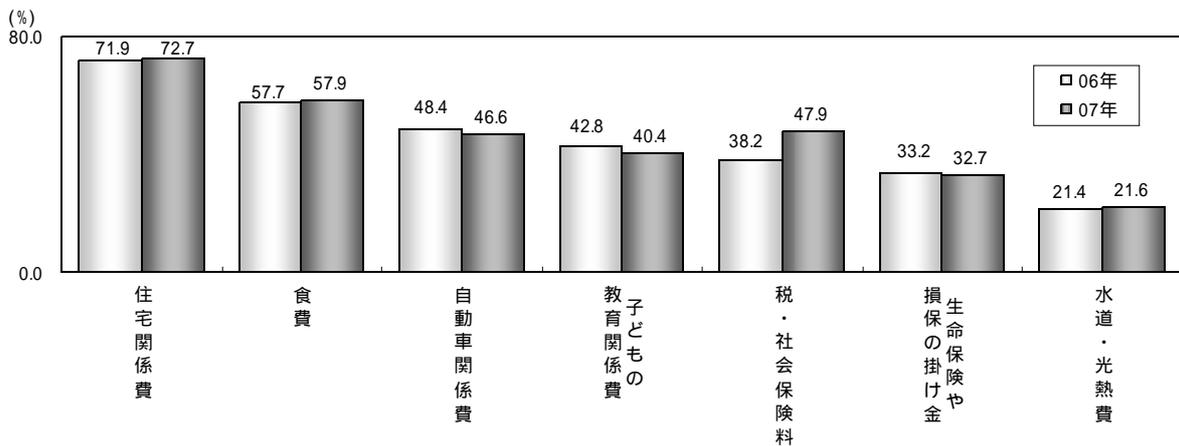
(3) 家計の中で負担感の強い費目

第5図から、この1年間位の家計状況で負担感の強い費目を電機連合（15項目中4つ以内選択）についてみると、「住宅関係費」（72.7%）が飛び抜けており、以下「食費（外食含む）」（57.9%）、「税・社会保険料」（47.9%）、「自動車関係費」（46.6%）、「子どもの教育関係費」（40.4%）が続いている。「食費」以外はすべて固定的支出の要素が強いものであることが特徴である。2006年に比べて「税・社会保険料」が10ポイント近く

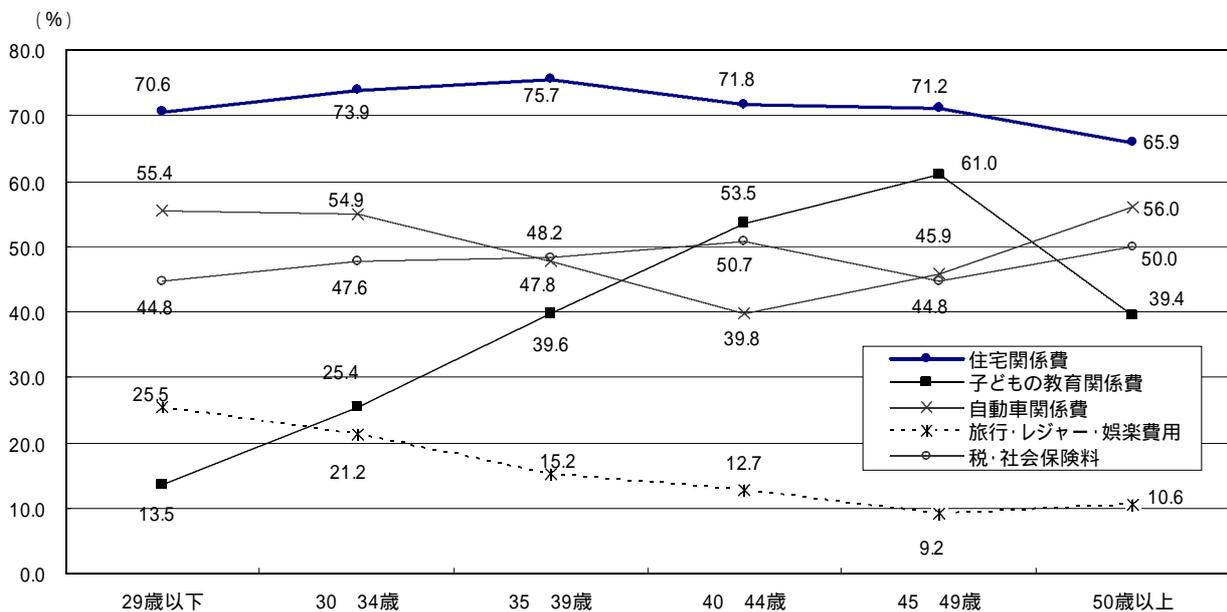
増えており、定率減税の廃止により住民税等が高くなったことなどが反映したものと思われる。

年齢別にみると、「税・社会保険料」は各年齢層とも4～5割と共通した負担感を示し、「住宅関係費」はどの年齢層においてもトップで7割前後を占めている（第6図）。「子どもの教育関係費」は40代、「旅行・レジャー・娯楽費用」は30代前半までの若い層、「自動車関係費」は30代前半までと50歳以上で負担感が多い。

第5図 この1年間における家計の負担感の推移【電機連合】（男性計、4つ以内選択）＜上位項目＞



第6図 この1年間における家計の負担感【電機連合】（男性計、4つ以内選択）＜上位項目＞



2. 賃金への満足度

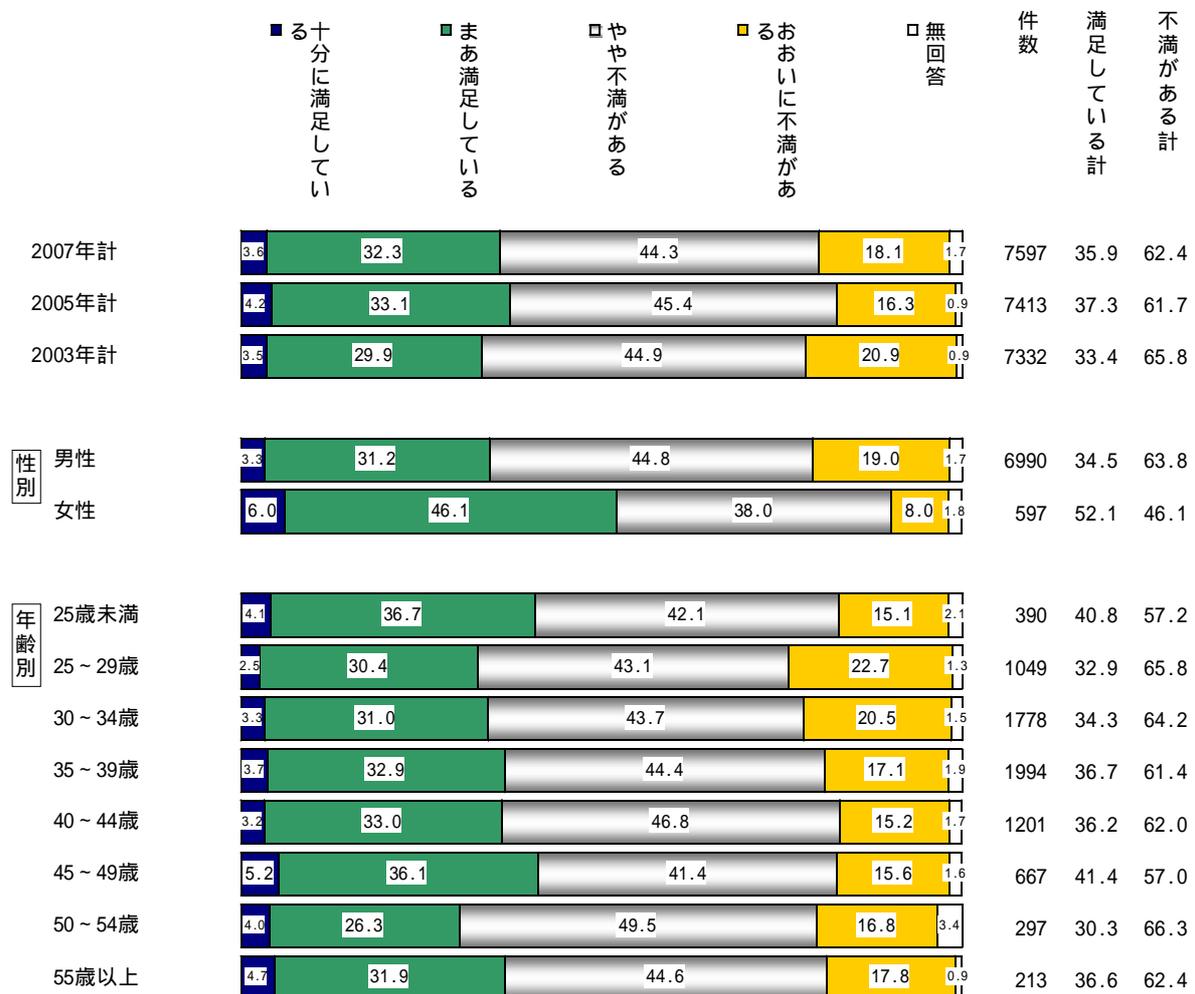
6割以上が<不満がある>

自動車総連調査では、現在の年間賃金総額への満足度をたずねている。第7図によると、<不満がある>（「やや不満がある」44.3%、「おおいに不満がある」18.1%）が6割強を占め、4割弱

の<満足している>（「十分に満足している」3.6%、「まあ満足している」32.3%）を上回っている。2005年調査と比べても、賃金への満足度に目立った変化は見られない。

年齢別にみると、<不満がある>はいずれの年齢層でも6割前後を占めており、<満足している>を上回っている。

第7図 現在の年間賃金総額への満足度【自動車総連】



3. 労働時間の現状と生活・健康への影響

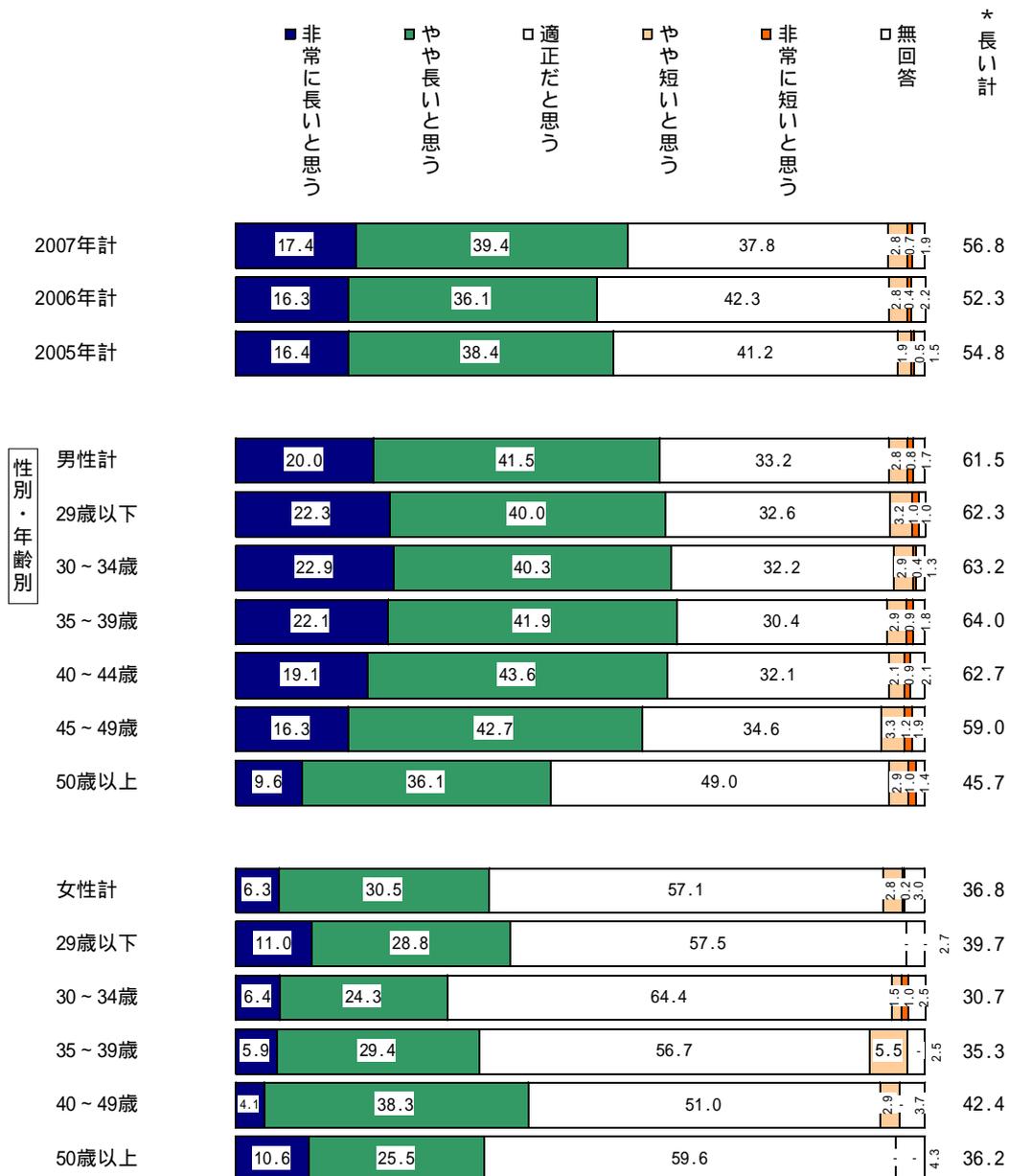
労働時間が長い人ほど多い健康への不安

(1) 労働時間の長さ

電機連合の場合、56.8%の組合員が自分の労働時間を「長い」と感じており、「非常に長いと思う」も17.4%と少なくない(第8図)。2006年と比べると、「長い」は5ポイント増加しており、

この1年間で組合員の労働時間に対する評価はより厳しくなっている。男性では、「長い」と感じている人が6割を超え、40代前半まではいずれも6割以上が「長い」と感じている。女性の場合、「長い」と感じている人は36.8%とほぼ4割みられるが、男性より大幅に少なく、代わって「適正である」が6割弱と多い。

第8図 自分自身の現在の総実労働時間について【電機連合】



裁量、みなし勤務以外の人について、時間外労働別にみると、<長い>と「適正」の評価が入れ替わる時間帯は20時間から30時間の間であることがわかる(第9図)。つまり、労働時間を<長い>と感じるようになる時間外労働時間は30時間が一つの目安であるといえる。

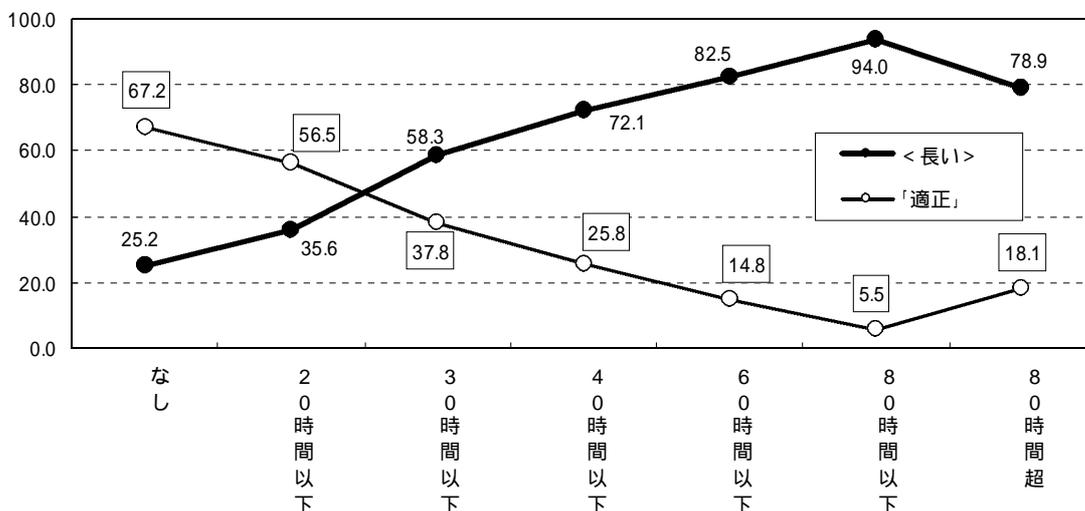
自動車総連では、自分の労働時間の現状について「普通だと思う」が53.1%と半数を超えているが、「長いと思う」も42.3%を占め、「短いと思う」(2.1%)はわずかである(第10図)。2005年調査と比べると、「長いと思う」はやや減少している。なお、「長いと思う」は30代で46%と多い。

(2) 残業に対する考え方

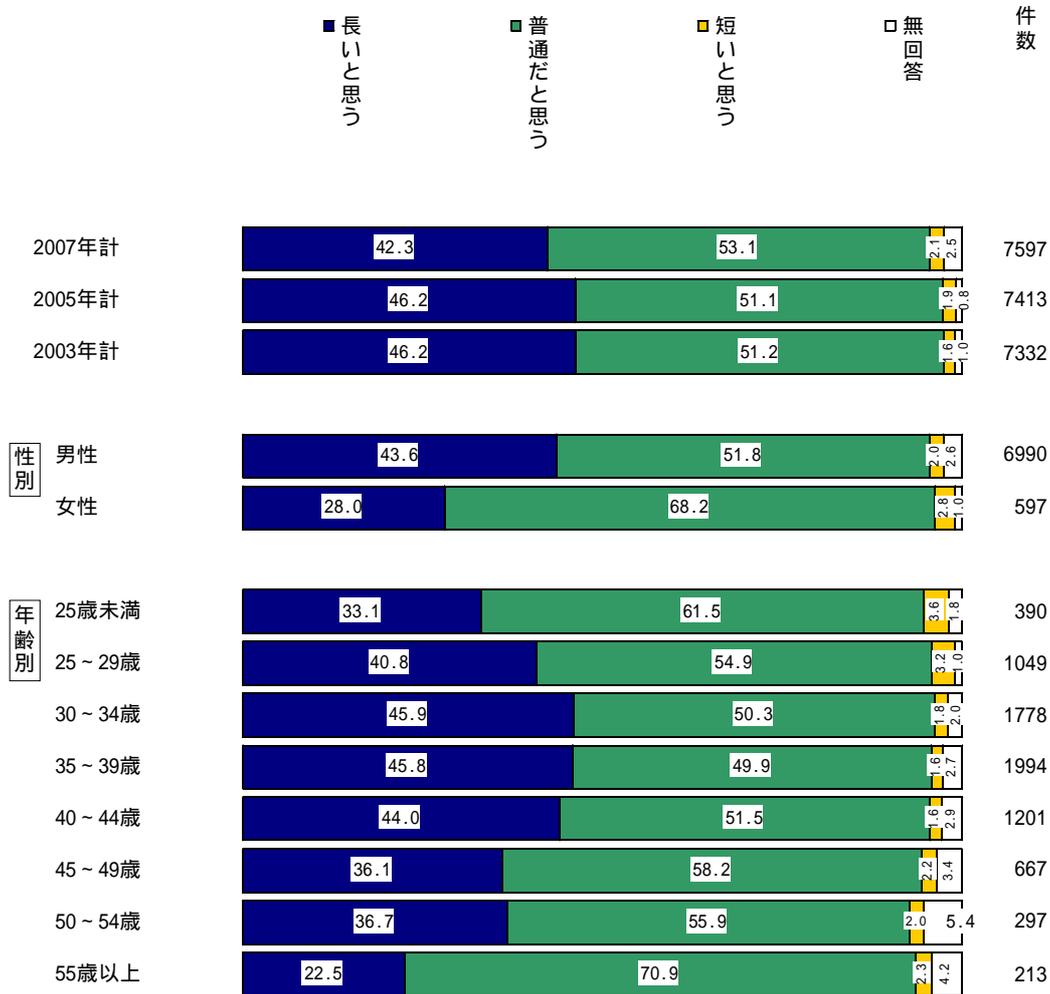
自動車総連調査から、残業に対する考え方につ

いて<そう思う>(「大いにそう思う」と「ある程度そう思う」の合計)の比率に着目してみると、[収入面から残業は必要だ]で83.7%、[自分の仕事消化のため残業は必要だ]で77.9%と多数を占め、収入や仕事消化の面からも残業は必要と考えられている(第11図)。その一方で、[健康面を考えると残業はやりたくない]が69.4%、[私生活を大切にしたいので残業はやりたくない]が64.1%と、健康や私生活面から残業に否定的な考え方も3人に2人に及ぶ。さらに、[そもそも残業すべきではない]という考え方は、<そう思う>が39.9%と半数を下回るものの少なくない。このように、仕事や私生活両面からも残業に対しては肯定的、否定的な考え方が存在している。このような結果は、2005年調査とほとんど変わらない。

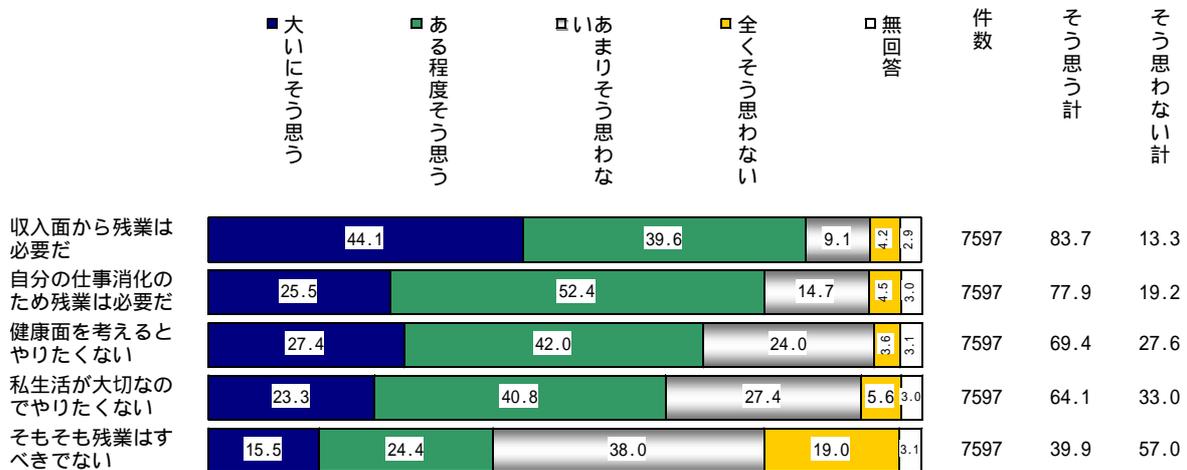
第9図 自分自身の現在の総実労働時間について【電機連合】(時間外労働時間別)



第10図 現状の労働時間の長さについて【自動車総連】



第11図 残業について【自動車総連】

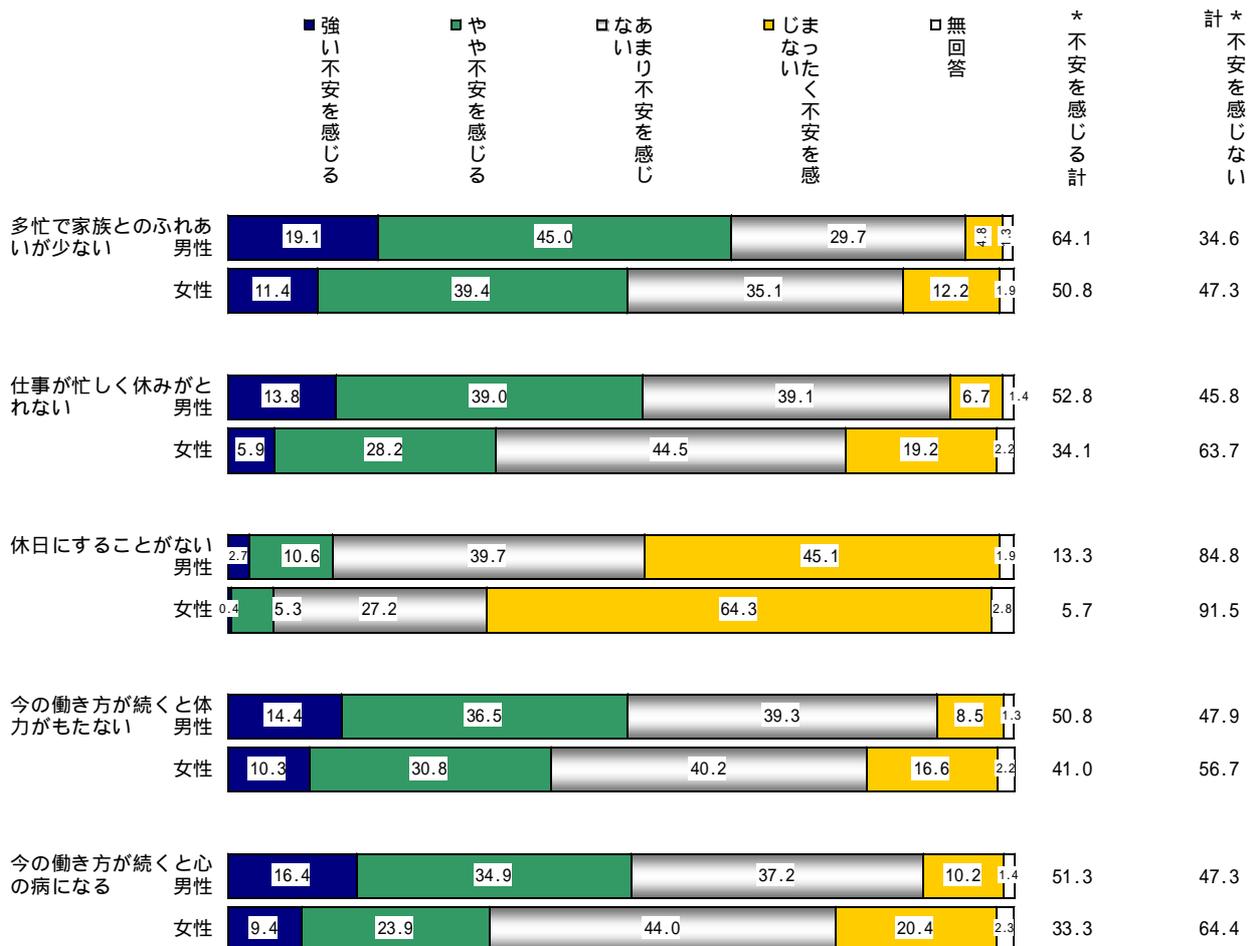


(3) 働き方が生活や健康に及ぼす影響

電機連合調査では、現在の働き方が生活や健康に及ぼす影響を示す5項目について、それぞれ不安を感じるかどうかをたずねている。「強い不安を感じる」と「やや不安を感じる」を合わせた「不安を感じる」の比率で男性の結果をみると「多忙で家族とのふれあいが少ない」が64.1%と最も不安感が高い(第12図)。また、「仕事が忙しく休みがとれない」(52.8%)や「今の働き方が続くと体力がもたない」(50.8%)、「今の働き方が続くと心の病になる」(51.3%)も半数以上が不安を感じている。他方、「休日にすることがない」はそれほど不安がない。女性の場合、男性よりも比較的不安は少ないが、その中で、「多忙で家族とのふれあいが少ない」(50.8%)は半数を占め最も多くなっている。多くの人にとって、現状は仕事と生活の調和(ワークライフバランス)がとれた状態とは言いがたく、健康不安を感じている人も少なくない。

く」と心の病になる」(51.3%)も半数以上が不安を感じている。他方、「休日にすることがない」はそれほど不安がない。女性の場合、男性よりも比較的不安は少ないが、その中で、「多忙で家族とのふれあいが少ない」(50.8%)は半数を占め最も多くなっている。多くの人にとって、現状は仕事と生活の調和(ワークライフバランス)がとれた状態とは言いがたく、健康不安を感じている人も少なくない。

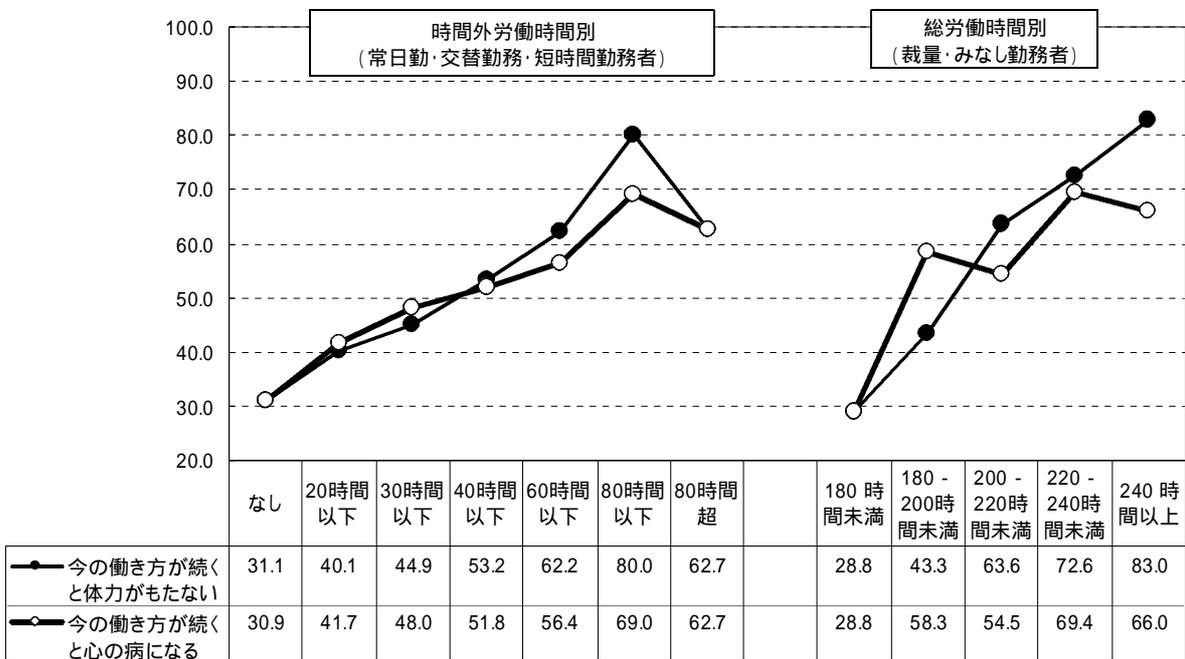
第12図 最近の生活や働きぶりの不安感【電機連合】



第13図は、[今の働き方が続くと体力がもたない](体力面) [今の働き方が続くと心の病になる](メンタル面)の2項目に絞って、<不安を感じる>の比率を時間外労働時間および裁量・みなし勤務者の総労働時間別にみたものである。時間外労働時間別では、30時間を超えると体力面、メンタル面とも<不安>が半数を超えている。さ

らに、体力面の<不安>は、40時間を超えると大きく増加し、6割に達している。みなし・裁量労働者の総労働時間別でみると、200時間を超えてところで体力面の<不安>が急増し6割を超えている。また、メンタル面の<不安>は180時間を超えたところで5割を大きく上回っている。

第13図 体力面、メンタル面の不安【電機連合】(<不安を感じる>の比率)



4. 現在の生活への評価

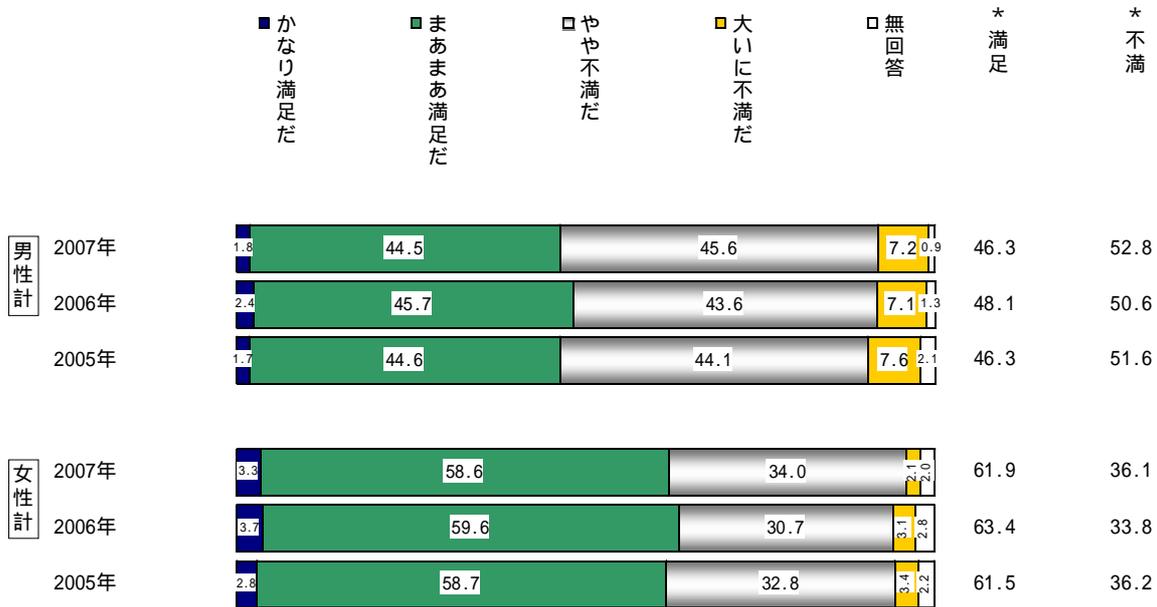
中高年層で多い<不満>

(1) 生活全体への満足度

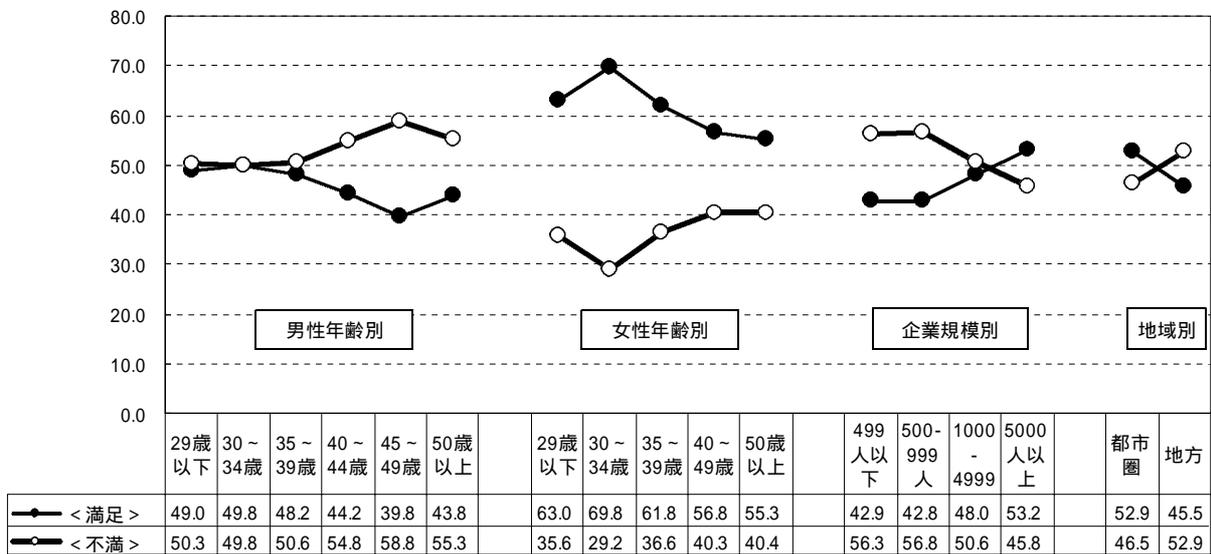
電機連合調査から、日頃の生活全体の満足度について、「かなり満足だ」と「まあまあ満足だ」を合わせた<満足>の比率をみると、男性では46.3%と半数を割っているのに対し、女性では61.9%と6割を超えている(第14図)。男女とも2006年に比べて<満足>がわずかに減少し、2005年とほぼ同水準になっている。男性年齢別でみると、

20代から30代までは<満足>と<不満>が拮抗し、評価は二分されている(第15図)。40代前半になると<不満>が<満足>を10ポイント上回り、40代後半になるとその差は20ポイント近くになっている。なお、50代になると40代後半よりは<不満>が少なくなるが、それでも10ポイント以上<満足>を上回っている。女性の場合は、いずれの年齢層でも<満足>が<不満>を上回るが、40代や50代では<満足>が5割台で評価はやや厳しくなっている。

第14図 日頃の生活全体の満足度【電機連合】



第15図 日頃の生活全体の満足度【電機連合】



公務員連絡会の場合、「まあまあだ」(51.2%)が最多で、これに「やや不満」(36.6%)が続き、評価の両端に位置する「大いに不満」(7.2%)と「かなり満足している」(3.2%)はともに少ない(第3表)。これを<満足 + >と<不満 + >の二つに括ると54.4% : 43.8%となる。<満足>が<不満>を11ポイント上回っている。2006年とおおむね同様の結果である。これを性別で見ると、男性の<満足> : <不満>は51.9% : 46.5%、女性は61.5% : 36.4%である。例年と同じく、男性に比べ女性で<満足>が多く

なっている。前年と比べた<満足>比率は、男性で横ばいなのに対し、女性では4ポイント増えている。年齢別の特徴としては、男女とも若年層で<満足>の多い点あげられる。ピークは男女とも20代前半で、その比率は男性65.3%、女性75.6%である。これとは対照的に、<満足>が最も落ち込むのは男女とも40代後半から50代前半で、その割合は男性では約4割、女性では約5割となっている。

電機連合、公務員連絡会とも、中高年層で不満が多い点は共通している。

第3表 生活の全体的評価【公務員連絡会】

| | | (総計、性別・年齢別) | | | | | | | |
|-------------|----------|------------------------------|-----------------------|------------------|-----------------------|--------|--------|--------|--|
| | | しか てな い る 満 足 | ま あ ま あ だ | や や 不 満 | 大 い に 不 満 | N A | 満 足 | 不 満 | |
| 総 計 | | 3.2 | 51.2 | 36.6 | 7.2 | 1.8 | 54.4 | 43.8 | |
| 06年 | | 2.6 | 50.8 | 37.7 | 7.7 | 1.2 | 53.4 | 45.4 | |
| 05年 | | 2.7 | 48.6 | 38.0 | 8.2 | 2.5 | 51.3 | 46.2 | |
| 04年 | | 2.7 | 52.2 | 37.4 | 7.0 | 0.7 | 54.9 | 44.4 | |
| 男性計 | | 3.0 | 48.9 | 38.5 | 8.0 | 1.6 | 51.9 | 46.5 | |
| 06年 | | 2.6 | 49.0 | 38.8 | 8.6 | 0.9 | 51.6 | 47.4 | |
| 05年 | | 2.5 | 45.8 | 40.2 | 9.3 | 2.3 | 48.3 | 49.5 | |
| 04年 | | 2.4 | 49.9 | 39.2 | 7.9 | 0.6 | 52.3 | 47.1 | |
| 年 齢 別 | 24歳以下 | 7.2 | 58.1 | 26.8 | 6.9 | 1.1 | 65.3 | 33.7 | |
| | 25 - 29歳 | 5.5 | 57.7 | 29.4 | 6.3 | 1.0 | 63.2 | 35.7 | |
| | 30 - 34歳 | 3.6 | 56.8 | 32.9 | 5.4 | 1.4 | 60.4 | 38.3 | |
| | 35 - 39歳 | 2.6 | 51.2 | 37.3 | 7.7 | 1.2 | 53.8 | 45.0 | |
| | 40 - 44歳 | 2.4 | 44.4 | 42.8 | 8.9 | 1.5 | 46.8 | 51.7 | |
| | 45 - 49歳 | 2.0 | 40.1 | 45.2 | 10.6 | 2.1 | 42.1 | 55.8 | |
| | 50 - 54歳 | 1.4 | 38.5 | 48.0 | 9.6 | 2.4 | 39.9 | 57.6 | |
| | 55歳以上 | 3.1 | 49.3 | 36.7 | 8.2 | 2.6 | 52.4 | 44.9 | |
| 女性計 | | 3.8 | 57.7 | 31.5 | 4.9 | 2.0 | 61.5 | 36.4 | |
| 06年 | | 2.5 | 55.5 | 34.9 | 5.4 | 1.8 | 58.0 | 40.3 | |
| 05年 | | 3.1 | 56.1 | 32.6 | 5.4 | 2.8 | 59.2 | 38.0 | |
| 04年 | | 3.3 | 57.9 | 33.3 | 4.6 | 0.9 | 61.2 | 37.9 | |
| 03年 | | 4.4 | 54.2 | 34.0 | 6.0 | 1.5 | 58.6 | 40.0 | |
| 年 齢 別 | 24歳以下 | 4.4 | 71.2 | 20.8 | 2.7 | 0.9 | 75.6 | 23.5 | |
| | 25 - 29歳 | 3.9 | 65.4 | 25.9 | 3.9 | 0.9 | 69.3 | 29.8 | |
| | 30 - 34歳 | 4.8 | 63.8 | 26.3 | 3.3 | 1.8 | 68.6 | 29.6 | |
| | 35 - 39歳 | 3.9 | 60.9 | 27.8 | 5.5 | 1.9 | 64.8 | 33.3 | |
| | 40 - 44歳 | 3.2 | 54.2 | 34.8 | 5.6 | 2.2 | 57.4 | 40.4 | |
| | 45 - 49歳 | 2.7 | 48.3 | 41.2 | 5.6 | 2.3 | 51.0 | 46.8 | |
| | 50 - 54歳 | 3.1 | 47.7 | 40.1 | 6.3 | 2.8 | 50.8 | 46.4 | |
| | 55歳以上 | 5.2 | 61.7 | 25.8 | 4.6 | 2.7 | 66.9 | 30.4 | |

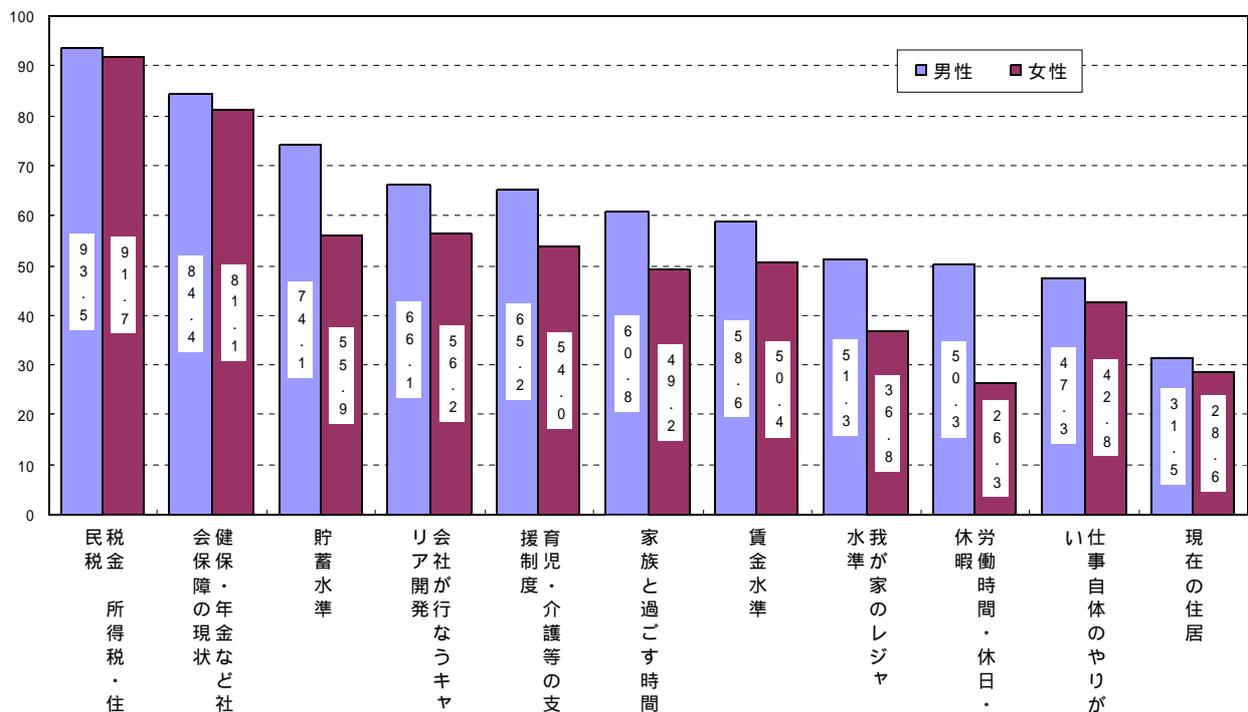
(2) 生活諸側面の評価

電機連合調査では、生活の11の側面について、「かなり満足だ」から「大いに不満だ」までの4段階で評価をたずねている。「やや不満だ」と「大いに不満だ」を括った<不満>の比率でみると、男性では、「税金（所得税・住民税）」が93.5%、「健保・年金など社会保障の現状」が84.4%で、この政策制度に関わる2項目は大多数が不満を感じていることが示されている（第16図）。以下、「貯蓄水準」が74.1%、「会社が行なうキャリア開発」(66.1%)、「育児・介護等の支援制度」(65.2%)、「家族と過ごす時間」(60.8%)が6割台で続いている。また、「賃金水準」も58.6%と6割弱で、不満は少なくない。2006年調査に比べ、

仕事に関連する分野はいずれも<不満>が高まっており、そのうち「労働時間」は4ポイント増の50.3%となっている。

女性の場合も「税金（所得税・住民税）」(91.7%)や「健保・年金など社会保障の現状」(81.1%)への不満が大きい点は共通している。ただし、男性と比べて「貯蓄水準」への不満は18ポイント、「会社が行なうキャリア開発」「育児・介護等の支援制度」への不満は10ポイント程度、それぞれ少ない。また、「労働時間・休日・休暇」、「家族と過ごす時間」、「我が家のレジャー水準」といった時間的ゆとりを示す項目についても、労働時間の実態を反映し、男性より<不満>は少なめとなっている。

第16図 日頃の生活評価【電機連合】(<不満>比率)



(3) 職場生活の諸側面についての評価

公務員連絡会調査では、生活諸側面への評価を職場生活に限定して設問しており、9つの項目について5段階(「1. かなり満足」から「5. 大いに不満」)で回答を求めている。ここで取りあげている課題は、職の安定、職場環境、労働条件の3つに要約される(第17図)。

職の安定：

[職場・職域の将来展望][雇用の安定][公務員としての身分の安定]の3項目とも<満足>の比率が少なく、中でも[職場・職域の将来展望]の<満足>はわずか15.5%で、<不満>が半数近くを占めている。公務員に絞って集計した [公務員としての身分の安定] については、<満足>：「どちらともいえない」：<不満>の比率が35.4%：34.9%：27.5%で評価が割れている。[雇用の安定] は<満足>が44.3%と、この分野の中では多いものの半数を下回っている。公務員職場に

おいても、職の将来展望はかなり不安定なものとなっている。

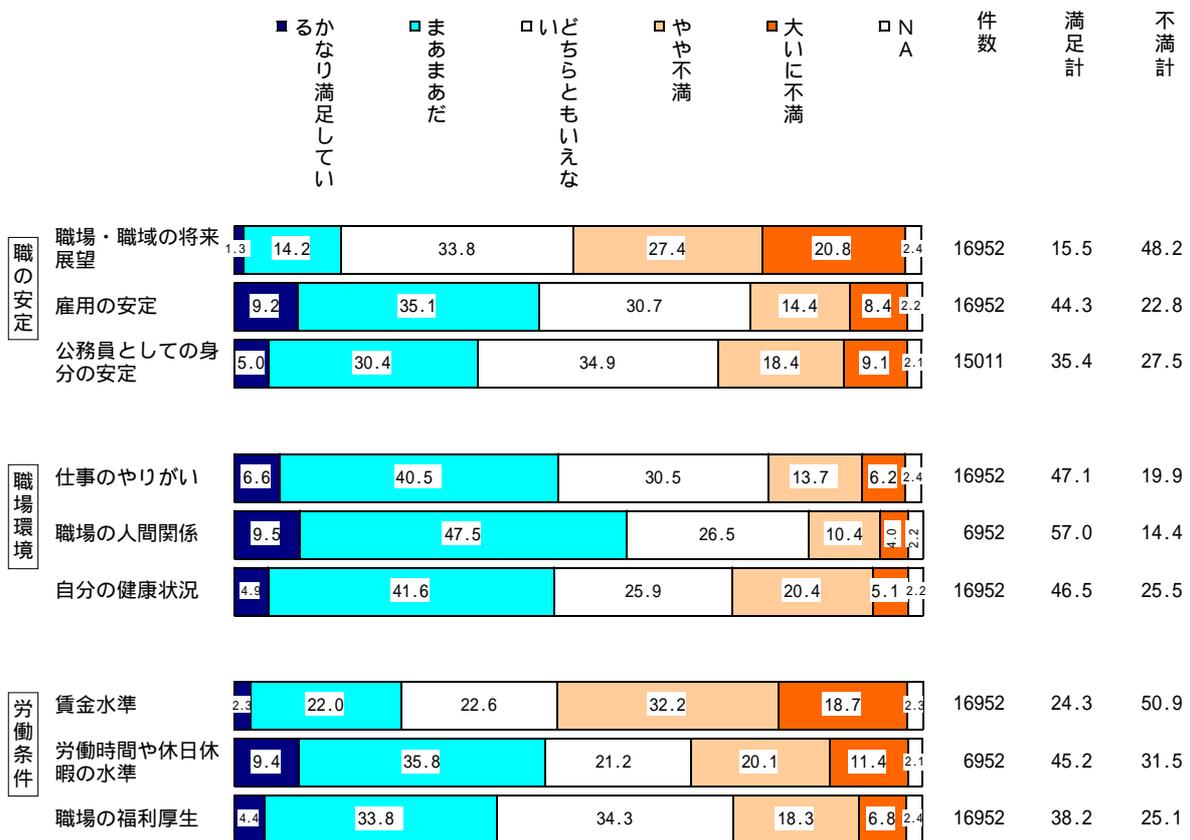
職場環境：

[仕事のやりがい][職場の人間関係][自分の健康] への<満足>は、順に47.1%、57.0%、46.5%で、他の分野に比べ多い。この<満足>についているのは「どちらともいえない」で、<不満>は同じく順に19.9%、14.4%、25.5%で、比較的少ない。

労働条件：

[賃金水準] は<満足>：「どちらともいえない」：<不満>が24.3%：22.6%：50.9%となっており、明らかに<不満>が多い。他方、[労働時間や休日休暇の水準] は<満足>が45.2%で<不満>の31.5%を上回っている。[職場の福利厚生] については<満足>38.2%、「どちらともいえない」34.3%、<不満>25.1%で、評価が割れている。

第17図 職場生活の諸側面についての評価【公務員連絡会】(総計)



5 . おわりに

2007年は、マクロ経済指標でみる限り引き続き緩やかながら景気は回復局面にあった。他方で、賃金の低下傾向に目立った改善は見られず、企業業績回復の効果が勤労者に十分波及していない。実感の伴わない景気回復と言われるゆえんである。

生活実態調査の結果をみても家計収支や生活程度に改善はみられず、住宅ローンや教育費の負担

が重い中高年層で厳しい家計状況となっている。さらには、近年負担増が続いている税金や社会保険料が家計に重くのしかかっている。労働時間については、雇用構造の変化を背景に、恒常的に長時間労働を余儀なくされている労働者が少なくない状況に大きな変化はなく、家庭生活や健康への影響が懸念される。こうした中で労働組合への期待は高まっており、取り組みの一層の充実が求められている。

労働組合のための調査情報誌

月刊 『労働調査』

年間購読料12,000円(送料、消費税込み)

最近号の特集一覧

2006年 3月号 若者はいま - 新しいライフスタイル

を求めて - 調査報告

4月号 次世代育成支援を考える

5月号 不公正な取引慣行是正に

向けた労働組合の取り組み

6月号 労働組合の情報発信の現状と課題

7月号 パート等労働者の組織化と労働条件改善の課題

8月号 次代を担うユニオンリーダーの現状

9月号 業務請負の現状と課題

10月号 ホワイトカラー・イグゼンプションの課題

11月・12月号 . 職場におけるメンタルヘルス

対策の現状と課題

. 労調協の仕事、この1年

2007年 1月号 賃金制度の現状と課題

2007年 2月号 労働組合における男女共同参画

3月号 2006年度生活実態調査総括報告

4月号 労働組合の環境問題への取り組み

5月号 ワークライフバランス実現に

向けた労働組合の取り組み

6月号 非典型労働者、
労働条件改善と組織化の最前線

7月号 若者と労働組合

8月号 企業再編と労働組合の組織

9月号 労働相談活動の最前線

10月号 教育現場の現状を考える

11月・12月号 . グローバル化と

諸外国の労働事情

. 労調協の仕事、この1年

2008年 1月号 労働者代表制の意味を考える